

「平成29年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	喜多方市立第二中学校、喜多方市立第一小学校
推進協力校名	喜多方市立松山小学校、喜多方市立上三宮小学校

喜多方市立第二中学校区の取組

1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

- (1) 「授業スタンダード」の校内研究への位置付け
(第一小・松山小・上三宮小)
- (2) 「授業スタンダード」冊子の周知徹底(第二中)



2 パイロット校の取組内容

(1) 「授業スタンダード」の校内研究への位置付け(第一小学校)

「授業スタンダード」と研究のつながりが分かるように、「授業スタンダード」チェックシートと「子どもの姿を具現化する3つの視点」を次のように整理した。

- ① ある子どもを中心に据えた学び合いを広げるための授業展開
→チェックシート1、2、4、5
- ② 学び合いを支える教師のつなぎ
→チェックシート6、7、8、11、12
- ③ 子どもが向上的に自分を変えていくための振り返りのさせ方
→チェックシート9、10、11
- ④ 3つの視点には入らないが、授業を支える基盤づくりでフォローしているもの
→チェックシート3

(2) 「タテ持ち」・「教科担任制」の実施

① 数学科における「タテ持ち」の取組(第二中学校)

○ 所属学年と学級担任のクラスの2つを持ち、他の2つの学年を1つずつ担当する。

	1組	2組	3組	4組
1年	A先生	A先生	B先生	C先生
2年	C先生	A先生	B先生	B先生
3年	C先生	C先生	A先生	B先生

- ・ 教科部会の持ち方、時間割調整(教務主任との連携)
- ・ 授業内容のすりあわせ(学習内容、使用教材、進度の調整)
- ・ テスト問題の作成(内容、問題)
- ・ テストの採点基準の設定
- ・ 評価の仕方のすりあわせ

② 理科、家庭科における「教科担任制」の取組(第一小学校)

○ 理科

5年1組	5年2組	6年1組	6年2組	6年3組
推進教師(研修主任)		スタンダード加配(生徒指導主事)		

○ 家庭科

5年1組	5年2組	6年1組	6年2組	6年3組
5年1組担任 (小教研家庭科部会に所属)		6年1組担任 (中学校家庭科の指導実績がある)		

専門性が高く、実験等の授業準備の多い「理科」と「家庭科」を教科担任制で行うことにし、左のような指導体制をとった。

(3) 「授業スタンダード」冊子の周知徹底（第二中学校）

教師一人一人に実践しているところをチェックして提出させたり、現職教育との連携で指導案に組み入れた実践を行わせたりした。

(4) 講演会の開催

「数学科におけるアクティブラーニングの視点から授業改善に向けて」と題して、明星大学教育学部 准教授 北島茂樹先生から「課題に対して解決の見通しを持ち、協働しながら最適解を見出せる力を育む」方法について講演をいただいた。

3 推進協力校の取組内容

(1) 松山小学校の取組 ～4年生 算数科の学習を通して～

① 主体的な学びを引き出す課題提示の工夫について〔「授業スタンダード」導入段階〕
〈視点〉多様な捉え方や解法がある課題や難易度の異なる問題を設定することにより、「これならできそうだ」「これはどうするのだろうか」といった興味・関心や追究・解決への意欲を高め、学習課題を自分のものとして捉えさせる。

〈考察・変容〉

○ 身近な素材を題材とするとともに、難易度の異なる問題を提示することにより、学習への興味・関心や追究・解決への意欲が高まり、学習課題を自分のものとして捉え、意欲的に取り組む姿が見られるようになった。

② 対話力を高める話し合いの場の設定について〔「授業スタンダード」展開段階〕

〈視点〉多様な関わりを重視した学びの場を設定することにより、思考を練り上げ、それを適切に伝え合うことで、対話力を高めていく。

〈考察・変容〉

○ 小グループでじっくりと課題解決をさせ、全体でおのおのの考え方を共有する時間を十分に確保することにより、多様な見方・考え方の中から規則性を見出し、式化されたものを共有し、その有用性に気づかせることができた。

(2) 上三宮小学校の取組 ～「授業スタンダード」の活用～

① 校内授業研究会の実施

算数科における授業研究において、特に①導入での「『問い』を引き出す課題提示」②展開での「個に応じた支援の工夫」「積極的発言を引き出す支援の工夫」③終末での「キーワードを手がかりにしたまとめ」に重点を置いて授業の構想を練り、計5回の授業研究会を実施した。その中で、10月24日の授業研究は、推進協力校授業研究会として実施した。



② 学力向上グランドデザインへの位置付け

『授業スタンダード』を基盤とした学習展開」を学力向上グランドデザインの中に位置付け、日常の授業で意識して実践できるようにチェックシートを作成した。各担任は重点事項についてチェックシートで振り返り、翌月の実践に生かしていくようにした。

4 成果と次年度へ向けて

【成果】

<第二中学校>

(1) 「タテ持ち」により、単学年での指導における「成果が出ないこと」に対する不安が

減るとともに、「来年度は自分の教科も『タテ持ち』を行うことになる」と、教師の意識が変わってきた。

(2) 教科部会を「いつでも気楽にやる」習慣が出てくるとともに、「学校課題」がはっきりとしてきた。

(3) 他の教師の「指導法や評定の出し方」を知ることができた。

<第一小学校>

(1) 「教科担任制」により、複数の学級を持つことで教材研究が深まるとともに、きめ細かな授業準備ができた。

(2) 思春期を迎える5・6年生に、複数の目で学習状況や人間関係を捉えて指導できるとともに、積極的な生徒指導が可能になった。

(3) 3つの視点で授業づくりを行うことで、子ども同士の話し合いが活発になった。

(4) 「教科担任制」により、当該教科の県学力調査、定着確認シートの得点が伸びた。

<松山小学校>

(1) 身近な題材により、「もっと知りたい」という子ども達の関心・意欲が高められ、主体的に思考する活動が見られるようになった。

(2) 小集団での話し合い活動に対して、ねらいを明確にして授業に取り入れることにより、難しい問題にも協力して根気強く取り組むことができるようになった。また、一人一人の考え方がよい方向に変容していき、学習を深める上で有効な手段となった。

<上三宮小学校>

(1) 実践内容の重点化を図り日常的に取り組めるようにしたことや授業研究による校内研修を計画的に行ったことにより、各担任が「授業スタンダード」を活用した授業実践の方法を身に付けることができた。また、子どもの意欲的に学ぶ姿が増え、学習内容の理解が深まった。

【次年度に向けて】

<第二中学校>

(1) 数学以外の「タテ持ち」を他教科でも実施するにあたり、年度内に予想される課題をもとに教科部会を実施するための準備期間を設ける。

(2) 他教科実施の場合には、教具の複数購入が課題になるため、市教委と相談しながら準備したい。



<第一小学校>

(1) 「教科担任制」の教科を増やしていく。

(2) 成績の受け渡し等、担任との情報交換の仕方を確立していくとともに、家庭学習との連携を図っていきたい。

(3) 単元を総括するような振り返りを行ったり、単元構成、授業展開を工夫して「活用」できる力を伸ばすとともに、自分の考えを適切に伝える表現力を更に育成していきたい。

<松山小学校>

(1) 他の考えを聞いて自分の考えと関連付け、更に意見を返すなど、よりよいものへと高めていくという意味での対話力では課題が残る。発達段階に応じた発表方法や学習形態については今後も検討していく必要があると思われる。

<上三宮小学校>

(1) より対話的な学び合いができるようにし、子ども一人一人が、筋道を立てて自分の考えを表現したり説明したりできる授業実践を目指したい。

学びのスタンダードが話題になった研修会

授業者の立場からホンネで語ります！

福井県と秋田県の視察から

「算数・数学授業づくり講演会」で、福井県と秋田県を視察した先生方のパネルディスカッションがありました。そこから感じたことをお伝えします。

	福井県	秋田県
授業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師主導に近い ・ 問題量が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題探求型 ・ 学習意欲の向上
校内研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縦持ち ・ 放課後や空き時間での意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校種間、教育専門官などによる連携 ・ 共通実践、共通理解
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 量が多いが提出率100% ・ その日のうちに返却 ・ 保護者の協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主学習（一人勉強） ・ ノート確認を複数の目で ・ 保護者の協力

福井のここがすごい！

- ・ **時間割の中に、教科会**（ex.算数部会など）が位置付けられて、日常的に教材研究の会話がある。
- ・ そのためか、ある学校は校内研修の会議が年1回！
- ・ 木曜は特別時程（研修のため）、**小中で一緒に会を持つ**ことも多い。
- ・ 小中での共通課題の設定、さらには**小中幼の先生方を交えた事後研**！
- ・ **宿題多し**！長期休業は問題集2冊、コンクール4つ、自学2冊！！8月初めくらいに家庭訪問。進捗をチェック。玄関先で教えることも。

秋田のここがすごい！

- ・ 小1～中3まで、一貫して**ノートはA4、1時間の授業を見開き2P**に書く。
- ・ T.T.に、**T1・T2の区別なし**。一人が指示を出す間に一人が板書など。
- ・ 教育専門官（コアティーチャーのような人）が、週1回来る。その日の1時間目は必ず打ち合わせ。
- ・ 家庭学習を担任外、管理職など、複数の目で見ること。

どちらも（特に福井）、教材研究や、授業について話し合う時間をしっかりと確保していると思います。また、授業の進め方や家庭学習など、地域全体で同じ方向を向いて実践するところが徹底しています。家庭学習は、どちらも量がとても多いようでした。家庭の協力もしっかりあればこそだと思いました。

小松調査官の講演から

- ・ **大切なのは子どもの表情。** 表情を見ながら次の一手を打てるようになりたい。だから指導案や板書計画は、授業をするときは手元に置きたくない。
- ・ 活発に発表していなくても、「**聞いている能動性**」もある。そういう子を見出し、ほめてあげたい。
- ・ 全国学力・学習状況調査の解説資料には、**B 活用の問題作成の枠組みとして、下の4つの観点**が挙げられている。これを単元計画に入れてみては？

- ① **物事を数・量・図形などに着目して観察し的確に捉えること。**
- ② **与えられた情報を分類整理したり、必要なものを適切に選択したりすること**
- ③ **筋道を立てて考えたり振り返って考えたりすること**
- ④ **事象を数学的に解釈したり、自分の考えを数学的に表現したりすること。**

- ・ また、同じく解説資料には、**記述式の問題の内容として、下の3つ**が挙げられている。この記述を指導案に書いてみては？ ※ 解説資料(算数) P7・8

- ① **事実の記述** ② **方法の記述** ③ **理由の記述**

- ・ ペア学習の時間は、その間に板書を・・・などの時間ではない。子どものアウトプットの時間なので、しっかり子どもを見取って。
- ・ あちこちで授業スタンダードが作られているが、基本はどれも似ている。導入・展開・終末はあくまでも段階。枠を超えたり、時間をまたいだりするもよし。
- ・ 授業を通して生徒指導を。教師の「～たい」を、子どもの「～たい」に。

小松調査官のお話は、いつも感じるのですが、授業を通して子どもをほめたり認めたりすることをとても大切にしている内容です。「きっと本当は授業をしたんだろうなあ」と感じます。

授業スタンダードにある右のような問い返しも、小松調査官のお話を聞いていると、自分にもできそうな気がして来るから不思議です。これらの問い返しで、子ども同士も認め合う場を作り出す授業を語っておられました。

□ 共有させるための教師の働きかけの例

【予想】「○さんの式の意味を説明できますか」

「○さんの考えの続きが言えますか」

【再生】「○さんの説明をもう一度言えますか」

【換言】「○さんの考えを別の言い方でも言えますか」

【要約】「○さんの考えを簡単に言えますか」

【共感】「○さんの気持ちが分かりますか」

【発見】「○さんの考えのよいところはどこですか」

【補助】「○さんの考えのヒントが言えますか」

□ 考えを深めるための問い返しの例

【事実】「どうのことですか」

【方法】「どのように考えたのですか」

【理由】「どうしてそうなるのですか」 など

